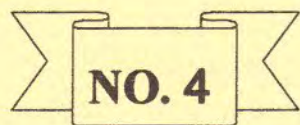


2001.11



LETTER

目次

- あけぼのソーラープロジェクトが始まります！！
『あけぼのソーラープロジェクト』に関する寄付のお願い…………… 2
- 法然院・森のセンター「おひさま発電所」寄付者の思い
『むささびソーラープロジェクトに参加して』…………… 3
- 理事からの一言（板倉 豊）…………… 4
- 森のセンター見学会開催…………… 4
- 誰でもわかる！シリーズ「グリーン電力制度」（豊田 陽介）
- 省エネひとくちメモ
「熱に電気を使わない」（能村 聡）…………… 5



特定非営利活動法人
きょうとグリーンファンド



環境にやさしい電力供給を目指しているNPO・きょうとグリーンファンドは、市民の寄付による「おひさま発電所」の太陽光発電設備を設置してもらえ、京都府内の幼稚園や保育園を募っている。スタッフは「化石燃料も原子力も使わないきれいな発電を身近に感じられ、子どもたちへの絶好の環境教育になる」と

太陽光発電設備 設置場所を募る

京の幼稚園などに呼び掛け

アピールしている。同ファンドは今年三月、市民ら約二百四十人の寄付と新エネルギー財団の補助金など約三百五十万円をかねて、京都市左京区の法然院の森のセンターに、出力四kwワットの太陽光パネルを設置した「おひさま発電所」を第一号を設備した。今月五日までの四カ月間に、一口の寄付でまかなう。

01. 7. 10 (京都)

きれいなエネルギー 身近に学んで

八十五万円かかるが、国の「新エネルギー草の根支援事業」により、半額が補助される見込み。残りを市民や設置場所の園の保護者ら

左記の新聞記事(京都新聞 7/10 付)で呼びかけた「おひさま発電所」2号機設置場所募集に、5件の問合せ・紹介がありました。きょうとグリーンファンドは3ヶ所の幼稚園・保育園を訪問して、ヒアリングと技術的アセスメントを行い、7月31日の臨時理事会で検討した結果、2号機は京都市伏見区醍醐の社会福祉法人 曙福社会 あけぼの保育園に設置することにしました。

また、新エネルギー財団(NEF)の平成13年度「新エネルギー草の根支援事業」の補助金を申請し、10月2日に交付が決定しました。

2号機は5KW規模の太陽光発電設備で、保育園3階の屋根に設置します。費用は総事業費約500万円(設備費/450万円、運営経費/50万円)で、すべて補助金の対象となりますので、2分の1にあたる250万円がNEFから補助金として交付されることとなります。(ほんとによかった!!うれしいですね)あとは、きょうとグリーンファンドの基金から40万円、残り210万円を市民からの寄付でまかなうという計画です。

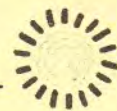
あけぼの保育園は1965年創立、隣接している「あけぼのケアハウス」にはコジェネレーションの設備が導入されているなど、日常的に環境に配慮した管理・運営を心がけておられます。前園舎では、落葉広葉樹を植えて日照をコントロールしたり、はき出し口から自然の風を入れたり、すでに目指すべき「エコ園舎」を実現しておられたようです。(残念ながらこの園舎は、醍醐地区の再開発地域にかかり現在は新しい園舎となっています。)

園長の矢島里美さんは、スタッフむけの説明会案内のなかで、「保育園で、おひさまを利用して電気がつくられることを身近に体験することにより、混沌とした21世紀を担って生きていく子ども達が、少しでも地球環境について関心を持ち、これからの成長の中で、自ら進んで省エネルギーにつとめるきっかけづくりになることを願っています。また、地域の中で誰もが集えるこの保育園から、地球にやさしい環境づくりを提案し、その意義を発信していくことも、保育に携わる私共の役割のひとつではないかと思ひます。」と述べておられます。

現在、きょうとグリーンファンドでは設置に向けてさまざまな準備に追われています。みなさまのさまざまな形でのご協力、どうかよろしくお願い致します。

『あけぼのソーラープロジェクト』に関する寄付のお願い

- 寄付金額 : 一口 3000円
寄付していただいた方には、サポーターカードを差し上げます。また、設置する太陽光パネルの裏には寄付していただいた方のお名前を記します。
- 寄付の募集期間 : 2001年11月1日～2002年1月31日
(点灯式は2002年2月10日の予定)
- 寄付目標額 : 210万円(運営経費を含みます)
- 発電設備仕様 : 5KW規模 太陽光発電システム



—『むささびソーラープロジェクト』に参加して—

■法然院の森は、児童館の子供にとって、真っ暗な闇・ムササビに逢える森・イノシシの大きなヌタ場のある深い山…身近に自然を感じることでできるとても大切な、そして大好きな場所です。特に寒い冬の夜、ふるえながら息をひそめてムササビが巣穴から出てくるのをじっと待っていたこと、そしてやっと枝から枝へと飛び移るムササビを見ることができたことは子供たちの心に大きな感動として残っています。そんな法然院の森のセンターに、おひさま発電所がつくられ、だん王児童館もサポーターとして協力することができたことは、とてもうれしいことだと思っています。

点灯式には、児童館の野外あそびクラブ「わんぱくクラブ」の高学年が参加させていただきました。ムササビの森にクリーンなおひさま発電所、とてもよく似合うと子供たちは感想を持ったようです。これを機会に、私たちがとりまく環境について目を向けてくれることを願っています。

だん王児童館館長、信ヶ原 和子

■ぼくたちは、太陽をつかって勉強をしたこともあります。ぼくは、船をつくってやったこともあります。和子先生にわんぱくクラブの代表でいかへんかと言われました。その時、ぼくはうれしかったです。いまでは、町じゅうにつけて太陽パネルで町じゅうをきれいにしたいと思います。だん王児童館、今江 祥太

■おひさま発電所をつくるまで、2000年11月12日から2001年3月31日まであった。「むささびソーラープロジェクト」として寄付を募りました。これにだん王児童館も協力しました。短い期間にもかかわらず、238名の参加があり、第1号おひさま発電所が法然院の森のセンターにできました。そこはムササビを見に、児童館から毎年行っている所です。太陽エネルギーはむささびや自然にとってもいい環境になったと思います。

だん王児童館、鳥谷 眞澄

■太陽の光で電球に光がついたとき、とってもうれしかった。ぼくたちは、4年生の時に太陽電気を使って勉強しました。太陽電気を使って船や車、扇風機を作って遊びました。太陽の光で家全部の電気がつかえたら便利だと思う。

だん王児童館、熊谷 叡輝

■ぼくは、だん王児童館の屋根にソーラーパネルを付けていろいろなことをしてみたいです。ぼくは小さいソーラーパネルで、ミニ四駆をつくったことがあります。もっと大きい車ぐらいのを作って乗ってみたいです。

だん王児童館、小原 啓太

■今年の夏は暑く、地球の温度が上がっているのを実感し、「悪循環だー」と思いつつ冷房に頼らずにはいられなかった、並みの人である私ですが、法然院森のセンターがおひさま発電所になる、「むささびソーラープロジェクト」を知った時、すごくうれしかったので、すばやく参加しました。この参加は、10年余り環境問題の学びと活動の場に所属しながら何ができたか？近い将来に大人になった生徒の誰かが、「子供のとき、アトリエの先生、“地球！地球！”って言ってたなあ。これがそうかな」と、何百番目かのおひさま発電所の参加者になり、そのころの発電は全て自然エネルギーからになっている。夢の一步の始まりです。

地球温暖化防止 京都ネット 畑 昶り子

■点灯式の日、まだ早春の寒い日でした。太陽光パネルに名前を記入し、やがて電球に灯がともり、それまでの寒さを忘れてしまうようなぬくもりを感じました。

この夏の暑さもですが、地球温暖化がどんどん進み、それに対して原発を増やそうという発想に疑問を感じ、自然の力をもっと有効に使えないものかと常々思っていました。

微力ながら海環境保護に関わっていて、その仲間と太陽光発電を研究している人と知り合い、自然エネルギーが身近なものに感じられ始めていた時でした。また、フィールドソサエティの会員で森のセンターは、よく利用していますので、おひさま発電所の発想は、すてきだなと思い参加させていただきました。これが次へとつながっていきますように。

橋川 篤子



CAT を訪問していなかったら、多分この文章を書くような立場にはなかったであろう。

CAT とは、自然エネルギー利用センター(Center for Alternative Technology)のことで英国のウェールズにあるテーマパークである。

1999年10月に日本ナショナルトラスト協会から派遣されて英国ナショナル・トラスト・ワーキングホリデーに参加しての帰りにロンドンからかなり離れた(電車で5時間)ウェールズの田舎町マキンリーにあるCATにたちよることが出来た。

CAT はもともとスレート鉱山で、19世紀までは盛んにスレートを掘り出し、建物の材料、特に屋根瓦にしてきたそうである。その後放置されてきた所にヒッピーが住みだし、コミュニンができて自給自足の生活をしてきたそうである。ある時期には地域住民とあまり良くない関係が続いたが、27年ほど前から食物の農業問題や環境問題に関心のある人々が主流になり、現在のリーダーである建築家のジェラルド・モーガン・グレンビル氏が電力等のエネルギー源(特に原子力発電)を政府に頼るのではなくて自らの手で得ることを目指し、ソーラー発電、風力発電、水力発電、バイオマス発電などに取り組むようになってきて、今では余剰電力を電力会社に売電できるようになってきた。

現在CATでは46名の正式スタッフとその家族70人が常駐しており、それ以外に臨時スタッフが時期により10~30名働いている。それ以外にエコキャビンと言う宿泊しながらエネルギー問題が体験できる宿舎に1年間を通じて、近くの小学生や研修生が20~40人宿泊学習している。

副理事長 板倉豊 (京都精華大学)

ざっと施設の概要を説明すると5万坪の敷地に、①自然エネルギーのコーナー;太陽、風力、水力、バイオマスのそれぞれの発電施設と体験施設②自然農業(有機農法)と自給自足に基づいた園芸・農地コーナー③子供達が遊びながら自然エネルギーや大地の仕組み、生態系が学習できる遊戯コーナー④それに加えてここで収穫された農作物を中心ににした自然風レストランと売店、CATで実践された各種自然エネルギーの利用方法の具体的なマニュアル本や関係書物(福岡正信氏の農業の本もあった!)、ソーラーシステムの各種キットや各種おみやげが所狭しと展示販売されている。

CATの基本理念は2I(アイ)と1Eと言われている、つまり興味の喚起(インスパイアリング)と情報・知識の提供(インフォーミング)そして自分でやってみる、実行すること(エネープリング)の3つである。「展示品に手を触れないでください!」などという愚劣な注意書きはCATでは見られない。有機農業のコーナーでは実際にCATで出たゴミをどのように分類しコンポストするかの分類と現物とそのプロセスが直接触れたり、臭いをかいだりできる。

きょうとグリーンファンドも将来は風力発電やその他のソフトエネルギーの分野にも手を広げ、CATまでの施設は無理でも、マウスぐらいの啓発道具を開発して多くの人をソフトエネルギーの良き理解者、推進者にしていきたいと思う、今日このごろであります。

ちなみに、CATのホームページアドレスは、

■<http://www.cat.org.uk>

法然院・森のセンター見学会に参加して 一京都生協主催 8月23日(木)13:00~

中土 三津子

8月23日、法然院・森のセンターで行われた自然エネルギー利用の学習会に、京都生協エコサポーターのひとりとして参加しました。

私自身、以前から太陽光発電などに興味はありましたが、まだまだ高価で手の届かないものという印象を持っていました。しかし、学習の中で、自然エネルギーの特徴やその普及の意義を聞く中、改めてその重要性を確信し、またグリーンファンドさんの「市民の力を合わせて普及を進めていく」という取り組みを聞いて、私にも何かできるかもしれない、しなければならないと前向きな考えに変わってきました。

先日の米国同時多発テロのような事件が起きて、もし原発がねらわれていたらと思うとぞっとします。自然エネルギーは、どこまでもやさしく、私たちや地球を守り支えるパートナーとして普及させなければならないと強く感じました。

誰でもわかる！ シリーズ

「グリーン電力制度」

豊田 陽介



グリーン電力とは、太陽光や風力発電などの自然エネルギー（再生可能エネルギー）から発電された電力のことです。グリーン電力制度とは、このグリーン電力の使用を消費者が選択できる制度で、消費者はグリーン電力を選択することでエネルギー消費に伴う環境負荷を低減することができます。

グリーン電力を選択した場合、消費者は通常の電気料金よりも割高な電気料金（上乘せ分）を支払うことで、グリーン電力の供給を受けることができます。ただし、厳密には、どんな発電方法でつくった電気であっても、電気であることに変わりありませんし、ひとたび電力系統に流れ込んでしまえば、分類することは不可能になります。

そこで、グリーン電力を求める顧客の電力消費量と、電力系統に供給されるグリーン電力の量は、同じか供給量が消費量を上回るように調整され、顧客にはグリーン電力の消費者であるという証明書（ライセンス）が発行されます。

このようなグリーン電力制度は、アメリカやオランダ、イギリス、オーストラリアなどのさまざまな国で既に始まっており、日本でも企業を中心としたグリーン電力制度が既に始まっています。今後、早くに、市民が自分の使いたい電気を選択できるようになる日が来ることが期待されます。

省エネひとくちメモ

●熱に電気を使わない

能村 聡



電気を用いてお湯を温めたり、部屋を熱暖房したりする器具があなたの身の回りにもありませんか。実は電気をじかに熱源に利用することは、エネルギーの効率を考えると環境にやさしくありません。

電力供給システムは、電気をたくさん使う場所である都市から遠く離れた場所に大きな原発や火力発電所をつくって都市まで長い距離を送電する大規模集中型になっています。このシステムでは発電の時に生みだされる膨大な熱は発電所で捨てざるを得ません。送電時にもロスが生じています。電気が変わるのはもとのエネルギーの 40%以下です。国全体のエネルギー利用効率では 33%、残り 67%は熱のごみ。10 隻のタンカーのうち 7 隻近くの石油が捨てられているということです。なんと恐ろしい無駄でしょう。だから電気はとても貴重なエネルギーなんです。しかも質の高いエネルギーですから、熱に転換するより電気・電子機器や照明、モーターなどの駆動力に優先して使う方がいいのです。

さて、具体的にできることはといえば？秋の夜長、暖かい飲み物が恋しくなりますね。お湯は何で沸かすか、から考えてはいかがが。**電気ジャーポットはやめて昔ながらの魔法瓶を使いましょう。**

電気ジャーポットは使い方によっては消費電力量が最近の容量 400 リットルクラスの冷蔵庫より多くなることがあります！国民生活センターのテストによれば 1 日 2 回、表示容量の湯を沸かし、24 時間通電して高温（98～95℃）で保温した場合、消費電力量は 1 カ月で 52～62kwh。400 リットルクラスの冷蔵庫では月間 30～40kwh 電気代ではどうでしょう。満水容量 2.2 リットルの電気ジャーポットを一日中使用した場合、電気代は約 30 円、一年間では約 1 万 1000 円にもなります。同じ量のお湯を 1 日 2 回ガスで沸かして魔法瓶に入れる場合、ガス代は年間 2300 円。どちらがお得？

自動給湯式の電気ポットのなかには真空断熱で省エネ保温と宣伝されている商品があります。これは保温時の断熱性能が若干改善されているものの、エアースクエア魔法瓶のから買い替えた場合、消費電力は大幅に増えてしまうため省エネになりません。**やっぱりお湯はガスで適量を沸かして魔法瓶に入れて使うのが間違いない省エネですね。**電気は熱源以外で必要なところにできるだけ省エネタイプの器具を用いましょう。

ぐりふあん日誌

- 7. 1~31 「おひさま発電所」第2号機設置場所募集
- 7. 2 第7回理事会
- 7. 17 設置場所訪問
ヒアリング・技術的アセスメント(7/19・23)
- 7. 24 事務局会議
- 7. 27 あげぼの保育園と協議
- 7. 31 臨時理事会開催、第2号機設置場所決定
- 8. 2 新エネルギー財団に助成金申請
- 8. 23 森のセンター見学会とミニ講座(京都生協)
- 8. 28 事務局会議
- 9. 4 第8回理事会
- 9. 11 事務局会議
- 9. 20 あげぼの保育園 説明会と学習会
- 9. 24 あげぼの保育園運動会でデモンストレーション
- 10. 2 助成金交付決定(新エネルギー財団)
- 10. 5 第9回理事会
- 10. 22 事務局会議
- 11. 2 第10回理事会



おひさま発電所1号
2001. 3. 3
~10. 30
総発電量:2009kw

☆匿名さん、カンパありがとう!!
深尾理事の講演を聞いた会場の方が、そっとカンパを
寄せられました。ありがとうございました。
☆畑さん、感想文と共にカンパありがとう。

□きょうとグリーンファンドのメンバーになるには?

- 会員は、会費をおさめ会の運営を支援します。「NPO 法人社員」にあたります。
- サポーターは、ファンド(基金)への寄付のみの参加です。

I. まず、会員かサポーターかをお選びください。 (入会申し込み書は事務局まで)

会員	10000 円/年	6000 円は基金への寄付分、4000 円は会費として使われます。 ※ 会員は「NPO 法人社員」として会の運営に参加していただきます。
サポーター	6000 円/年	5000 円は基金への寄付分、1000 円は通信費として使われます。

II. 次に、払込みの方法をお選びください。

郵便振替 (年払い)	☆下の口座に直接振り込んでください。年1回(入会月) [郵便振替口座 00930-6-157817 きょうとグリーンファンド]
郵便局からの 自動払い (年払い)	◆会員…年1回 10000 円(入会月)が引き落とされます。 ◆サポーター…年1回 6000 円(入会月)が引き落とされます
郵便局からの 自動払い (月払い)	◆会員…年1回 4500 円(入会月)と、月々500 円が引き落とされます。 ◆サポーター…月々500 円が引き落とされます。

★ろうきん口座からの自動払いの方法もあります。この場合手数料はかかりません。詳しくは事務局にお問い合わせください。

特定非営利活動法人きょうとグリーンファンド

事務局

〒604-0932 京都市中京区寺町二条下ル妙満寺前町 446 ワカバヤシビル 3
京都プロボノセンター内 (月~金 11:00~16:00)

TEL/FAX : 075-241-0550 , E-mail : grifan@h7.dion.ne.jp
: kyoto-GF@npo-net.or.jp

ホームページ URL : <http://www.h3.dion.ne.jp/~kyoto-gf>

